

JAきたみらい

あひま サカタ

2020



vol.210

7

はいっポーズ

《相内地区・西相内》

大橋保登士やすとしさんと慈いつきくん・功武いさむくん

(紹介は2ページです)

特集 新規就農者激励状授与式と
令和2年度 新規就農者紹介



変わらぬ美味しい メロンを届けたい

季節の薫り



寒暖差の大きかった6月、訓子府町の特産品「訓子府メロン」の収穫が6月下旬から、スタートしました。

訓子府町メロン振興会副会長の岩本直樹さんは約11aを作付けしており、6月30日から収穫作業を始めました。今年は低温が続き、生育に芳しくない環境が続きましたが、管理作業の徹底を図ったことで、収穫時期は若干遅れたものの、糖度も形も上々に仕上がりました。手作業で一つひとつ丁寧に収穫され、箱に詰められていきました。

岩本さんは「訓子府メロンの変わらぬ美味しさを味わってもらい、消費者に選んでもらえるメロンを出荷し続けたい」と意気込みを語ってくれました。

収穫作業は8月中旬まで行われる予定です。

(臼井 楨吾)



◀メロンの収穫作業を行う岩本さん ▲収穫したメロン

もくじ CONTENTS

○おひさまサラダクッキング 「夏野菜のエスニックサラダ」 「塩漬けスペアリブのポトフ」	22
○JAからのお知らせ	15
○ほのぼの広場 ・きたみらい青年部 ・記念の一枚	14
○JAトピックス	12
○新常勤役員体制でスタート	10
○表紙紹介 「健康的にのびのびと 成長してほしい」	2
○季節の薫り	2
特集 新規就農者激励状授与式と 令和2年度 新規就農者紹介	4

表紙紹介

健康的にのびのびと成長してほしい

大橋家を訪れると車から降りてきた三男の慈くん(7)と四男の功武くん(4)が「カメラおしらい〜!」とカメラに興味津々で急接近!

とっても優しい性格の慈くんは、4月から小学1年生。学校生活について聞いてみると「キンコンカンコンなら教室にもおいたよ」としつかり時間を守っている優等生。コロナ禍で学校がお休みの期間に与えられた「春をみつけましょ」という課題があり、春に咲く植物を探しに行ったことが忘れられない思い出になったようです。小学生になり成長したところをお母さんの加奈子さんに聞くと「学校へバス通学しているからお兄さんになったね」と言われちょっと嬉しそうなお母さん、将来は消防士になりたいと少し照れた様子で教えてくれました。

幼稚園に通う功武くんは、やんちゃで甘えん坊な末っ子の4歳です。最近幼稚園では、大好きなお父さんとお母さんの似顔絵をよく描くようです。取材中は甘えん坊な一面の他、「補助輪なしの自転車に乗っているカッコいい姿も見せてくれました。大きくなったらラグビー選手になりたい!と素敵な夢を教えてくださいました。

2人はとても仲良しで、お家の中では「ゴブロック」やかくれんぼおにぎり、お父さんと一緒に戦いごっこをするのが最近のトレンド!

お父さんの好きな「おはは」も「おはは」も一緒に遊んでくわんた「おはは」お母さんの好きな「おはは」美味い!おははを作ってくれなごう。手作りハンモック!とたくさんある様子をみました。

そんな2人にお母さんは「健康的にのびのびと成長してほしい」と願っています。(森谷 弥生)



【ご家族紹介】
前列左から〜三男の慈くん(7)、四男の功武くん(4)、
後列左から〜お父さんの保登士さん(39)、
お母さんの加奈子さん(41)
作付内容：乳牛70頭、秋小麦、デントコーン、牧草など約42%

令和2年度 新規就農者紹介

JAきたみらいの各地域に将来を期待される仲間が就農しました。
未来を担う新規就農者の14名に抱負を語っていただきました。



北見地区・三輪
みやした こうだい
宮下 広太さん (22歳)

就農したきっかけ

植物が生長していく過程を見るのが好きで、父の仕事をしている姿を見ていると、とても楽しそうにしており、やりがいのある仕事だと、伝わってきました。

そういった父の姿を見て、自分も就農して、農業をやりたいと思ったのがきっかけです。

今後の抱負

1日でも早く1人前の農家になり、父や母の力になりたいです。

★畑野複合経営の尚樹さんの後継者です。

温根湯地区・平里
はば よしのり
羽馬 義則さん (30歳)

就農したきっかけ

退職をきっかけに農家になろうと思い就農しました。

今後の抱負

北見の耕作者としてより良いものを作り、たくさんの人に自分が作ったものを食べていただきたい。まだまだ勉強不足で知識も身につけていないので、これから自分自身でもがんばります。

★畑野複合経営の義幸さんの弟です。



特集

新規就農者に激励状を授与

〜きたみらい管内に14名が就農〜

第一次産業の農業を「自分の職場」として、高校・大学などを卒業して就農された方、あるいは他産業に従事し、第二の職場としてUターンされた方、いずれも農業への情熱は同じです。農業に意欲を持って取り組む青年に、毎年、JAグループ北海道五連から激励状が贈られます。

本年は北見地区新規就農者交流研修会が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となりましたが、激励状授与式が6月25日に行われました。

北海道の農業・農村を担う一員として、新しく農業に意欲を持って取り組む青年に毎年、JAグループ北海道五連（中央会・ホクレン・北信連・共済連・厚生連）会長連名の激励状と記念品を贈呈しています。当JAでは新規卒業者で4名、U



▲激励状を受け取る宮下さん（北見地区）



▲激励の言葉を贈る大坪組合長

ターン等で10名の計14名に授与されました。激励状授与式は、6月25日にJAきたみらいセンター事務所で行われ、10名が出席しました。大坪組合長はJAグループ北海道五連の使命と事業内容を説明した後、「JAきたみらいは頑張るみなさんの手助けをします。みなさんの前途に幸多かれ」と激励の言葉を贈りました。その後、一人ひとりに「大きな目標の実現に向けて頑張ってください」と声を掛けて激励状を手渡すと、新規就農者のみなさんは力強く頷き、応えていました。



▲授与式に出席した10名の就農者とJAきたみらいの役員



訓子府地区・日出
しまぬき わたる
島貫 渉さん (25歳)

就農したきっかけ
大学卒業後に、1年間海外農業研修としてオランダで生活したことが今の道に進んだ1番の理由です。ヨーロッパの農業を見て、日本の農業もやり方によっては世界に負けない、共存できると感じ、私もその世界で戦ってみたいと思ったからです。

今後の抱負
「見切り発車は成功のもと」をモットーにしているの、迷ったら、立ち止まらず、とりあえず何か行動する。たくさん、失敗、経験をしていける農業者になります。

★稲畑野複合経営の亨さんの後継者です。



置戸地区・北光
くらもとりゅうのすけ
倉本龍之助さん (27歳)

就農したきっかけ
大学卒業後、札幌で2年間他の業種で働いていたのですが、将来のことを考え、両親に恩返しをしたいと思い、就農しました。

今後の抱負
父から酪農や会社経営のことについて学んでいき、より発展させていきたいと思っています。

★法人酪農経営の㈱ノールフロマージュの倉本秀樹さんの後継者です。

訓子府地区・柏丘
にしだ たかふみ
西田 貴文さん (25歳)

就農したきっかけ
前に勤めていた仕事の退職を機に実家の農業を継ぐことに決めました。

今後の抱負
厳しいコロナ禍の最中ですが、それに負けずに頑張りたくです。



★畑野複合経営の博文さんの後継者です。

訓子府地区・高園
あいた よしひと
會田 芳仁さん (20歳)

就農したきっかけ
家が農家で自分でも、野菜を作りたいと思ったからです。

今後の抱負
親の経営を学び、その後親よりも良い野菜を作りたいです。



★畑野複合経営の芳典さんの後継者です。



訓子府地区・北栄
はせがわゆうた
長谷川優太さん (21歳)

就農したきっかけ
専門学校を卒業後、一度関東で就職をしたのですが自分と合わず退職をし、実家を継ぎ、父親の様になろうと思い就農をしました。

今後の抱負
最近では体力だけでなく頭も必要と聞いたことがあるので、これからも学ぶ姿勢を忘れずに活動をしていきたいです。

★畑野複合経営の和夫さんの後継者です。

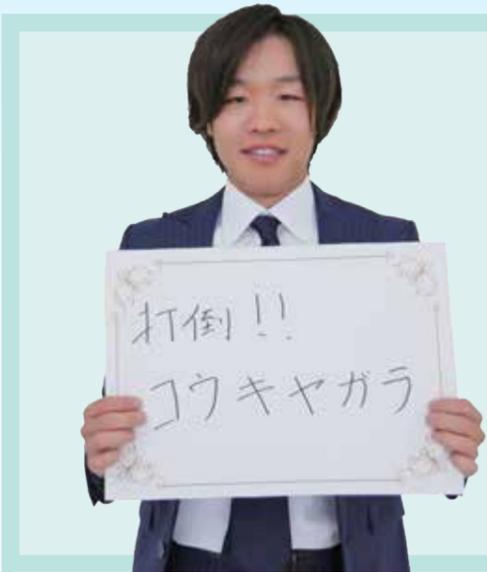


訓子府地区・日出
さいとう ふみあき
齊藤 史明さん (28歳)

就農したきっかけ
就農前は、5年程電気工事会社に勤めていました。退社後は実家を手伝いながら、作物の流通、選果の勉強になればいいと思い、選果場にてアルバイトでお世話になったりしていました。きっかけというものは特に無く、今は言われた事しか出来ていないので、ゆくゆくは自分で考えて行動していければと思います。

今後の抱負
健康で長くやっていければと思います。怪我と病気に気を付けながら過ごしつつ、日々学んでいければと思っています。

★畑野複合経営の健児さんの後継者です。



端野地区・川向
さくらい ゆうと
桜井 勇人さん (25歳)

就農したきっかけ
将来的に就農しようと考えており、アラサーになったタイミングで家を継ぐことを決めました。

今後の抱負
消費者に喜ばれるような野菜作りを目指します!!
そして雑草との戦いに負けないよう、体力をつけます!

★畑野複合経営の慎一さんの後継者です。

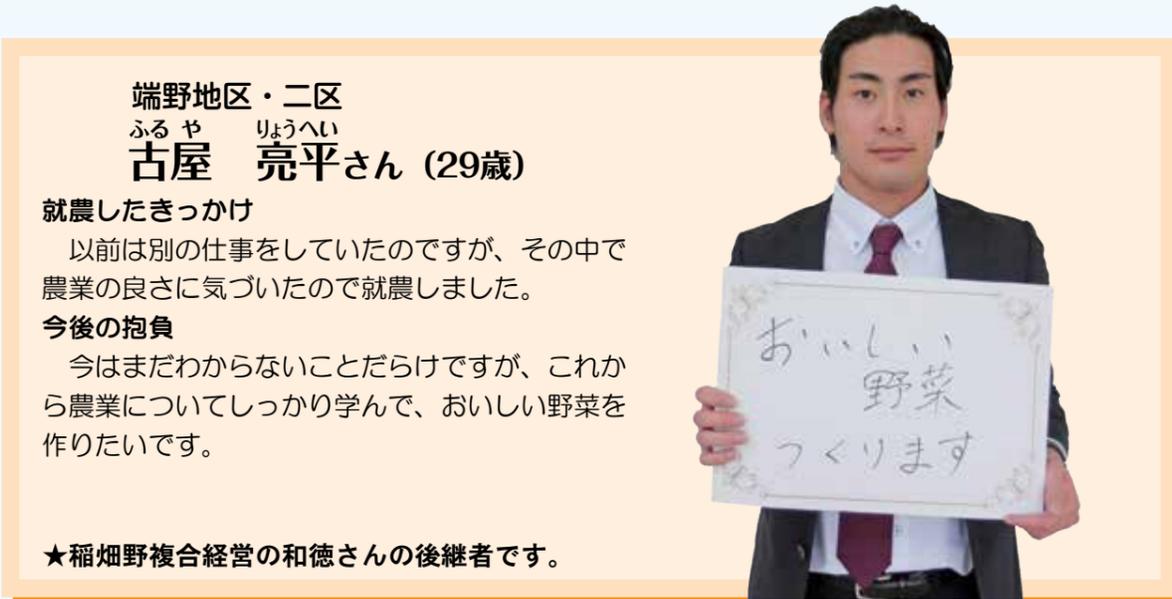


訓子府地区・西富
わたなべ ゆいと
渡辺 唯翔さん (19歳)

就農したきっかけ
自分はアルペンスキーをしていて、高校3年生の進学に悩んでいた時、実家の酪農を手伝いながらもスキーを続けられることを知り、就農を決意しました。

今後の抱負
酪農の仕事は毎日が新しい出来事との出会いなので、一つ一つ経験し早く一人前になりたいです。

★酪農專業経営の重明さんの後継者です。

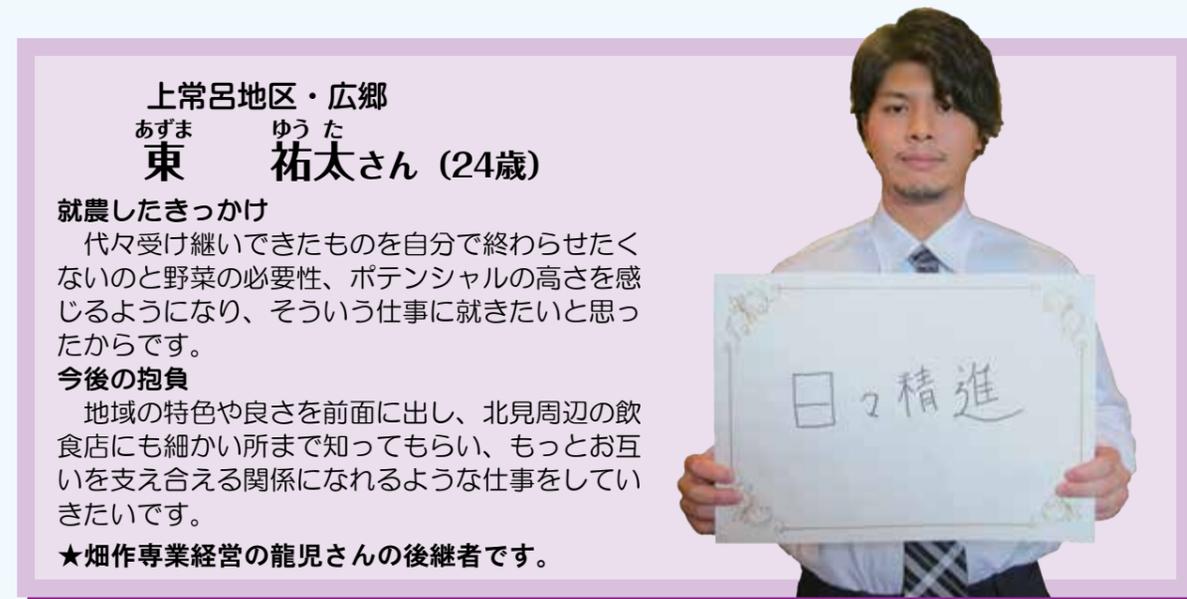


端野地区・二区
ふるや りょうへい
古屋 亮平さん (29歳)

就農したきっかけ
以前は別の仕事をしていたのですが、その中で農業の良さに気づいたので就農しました。

今後の抱負
今はまだわからないことだらけですが、これから農業についてしっかり学んで、おいしい野菜を作りたいです。

★稲畑野複合経営の和徳さんの後継者です。

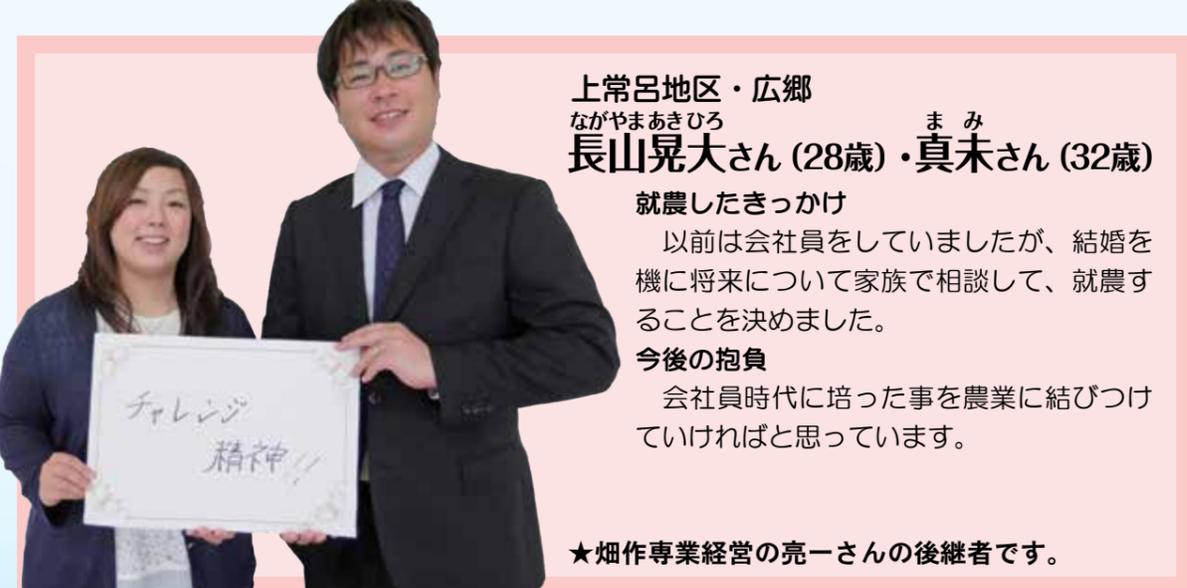


上常呂地区・広郷
あずま ゆうた
東 祐太さん (24歳)

就農したきっかけ
代々受け継いできたものを自分で終わらせたくないのと野菜の必要性、ポテンシャルの高さを感じるようになり、そういう仕事に就きたいと思ったからです。

今後の抱負
地域の特色や良さを前面に出し、北見周辺の飲食店にも細かい所まで知ってもらい、もっとお互いを支え合える関係になれるような仕事をしていきたいです。

★畑作專業経営の龍児さんの後継者です。



上常呂地区・広郷
ながやまあきひろ まみ
長山晃大さん (28歳)・真未さん (32歳)

就農したきっかけ
以前は会社員をしていましたが、結婚を機に将来について家族で相談して、就農することを決めました。

今後の抱負
会社員時代に培った事を農業に結びつけていければと思っています。

★畑作專業経営の亮一さんの後継者です。

就任挨拶

健康で安心して暮らせる
地域社会の形成に向けて



会長理事
西川 孝範

過日、JA北海道厚生連および各連合会の通常総会が開催され、不肖ながら、私がJA北海道厚生連代表理事副会長ならびにJA全共連北海道本部運営委員会副会長に就任することとなりました。

JA北海道厚生連は「医療事業」「保健福祉事業」「JA配置事業」の3大事業を展開し、健康で安心して暮らせる地域社会と農村の環境づくりに取り組んでいます。

また、JA全共連では「相互扶助」を事業理念とした共済事業を展開しており、「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者が豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献しております。

少子高齢化社会への急速な進展と社会環境の構造変化など、事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、組合員等利用者が健康で安心して暮らせる地域社会の環境づくりに貢献するため、組織の総力を結集し、中瀬会長をはじめとした役員の方々とともに、事業推進に取り組んでまいります。

さて、JAきたみらいは大坪組合長を筆頭に新体制となり、人口減少時代を見据えながら「心と地域の豊かさを求めて」新たにスタートしたところであり、これまで経験したことのない「コロナ禍」の最中にあり、従来とは異なる対応を求められる場面が多くなるとは思いますが、非常勤理事として私も側面から努力し、エールを送り続けたいと考えております。

最後に、組合員、ご家族の皆様がご健勝で、災害・農作業事故がなく豊稔の出来秋を迎えられますよう心からご祈念申し上げます。

新常勤役員体制 スタート

大坪専務が代表理事組合長に就任



▶6月29日の朝礼で、組合長退任及び会長理事就任と道厚生連副会長就任にあたっての挨拶を行う西川会長



▲6月24日の終礼において、新常勤役員体制のスタートにあたり、代表して就任挨拶を行う大坪組合長(左)、右側は齊藤専務

JA北海道中央会及び各連合会(ホクレン・信連・厚生連)は6月23日と24日の両日、札幌市内で通常総会を開催しました。

本年度は、3年ごとの役員改選期にあたり、道中央会と各連合会の会長、副会長など新常勤役員が選任されました。

当JAの西川組合長は、北海道厚生連・代表理事副会長と全共連北海道本部運営委員会副会長に就任することに伴い、JAきたみらいの役員体制が、次の通り選任されましたのでお知らせ致します。

【新執行体制】

会長理事	西川 孝範
代表理事組合長	大坪 広則
代表理事専務	齊藤 和雄
常務理事	高橋 優
常務理事	越田 喜裕

JA北海道厚生連は「相互扶助」を事業理念とした共済事業を展開しており、「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者が豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献しております。

少子高齢化社会への急速な進展と社会環境の構造変化など、事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、組合員等利用者が健康で安心して暮らせる地域社会の環境づくりに貢献するため、組織の総力を結集し、中瀬会長をはじめとした役員の方々とともに、事業推進に取り組んでまいります。

さて、JAきたみらいは大坪組合長を筆頭に新体制となり、人口減少時代を見据えながら「心と地域の豊かさを求めて」新たにスタートしたところであり、これまで経験したことのない「コロナ禍」の最中にあり、従来とは異なる対応を求められる場面が多くなるとは思いますが、非常勤理事として私も側面から努力し、エールを送り続けたいと考えております。

最後に、組合員、ご家族の皆様がご健勝で、災害・農作業事故がなく豊稔の出来秋を迎えられますよう心からご祈念申し上げます。

さて、JAきたみらいは大坪組合長を筆頭に新体制となり、人口減少時代を見据えながら「心と地域の豊かさを求めて」新たにスタートしたところであり、これまで経験したことのない「コロナ禍」の最中にあり、従来とは異なる対応を求められる場面が多くなるとは思いますが、非常勤理事として私も側面から努力し、エールを送り続けたいと考えております。

最後に、組合員、ご家族の皆様がご健勝で、災害・農作業事故がなく豊稔の出来秋を迎えられますよう心からご祈念申し上げます。

西川組合長 道厚生連副会長と 全共連北海道本部運営委員会副会長に就任

夢と希望を持ち、
誇れる農業を目指し



代表理事組合長
大坪 広則

今年の春作業は融雪も順調に進み、平年並みのスタートとなり、時き付け作業も順調に終了したところであります。組合員の肥培管理のもと天候に恵まれ、良い出来秋を期待するところであります。

そんな状況の中、西川前組合長がJA北海道厚生連代表理事、JA全共連北海道本部運営委員会の副会長に任命された事を受け、5月の理事会に於いて残りの任期を組合長としての重責を受ける事になりました。今まで常務理事、専務理事と組合員をはじめ、多くの役員の方々に支えられ「すべては組合員のために」を理念の基、農協事業運営に参画出来た事に改めて感謝申し上げます。今までの経験を生かし組合長としての重責を精神誠意努めて行く事を決意したところであります。

これから農業を担う若い世代が「夢と希望の持てる、どんな時でも農業を誇れる」農協事業を組合員の皆様と共に構築する事が重要と考えます。そのために組合員の生産技術と役員判断として

職員の方々の知恵を融合させ総合農協の強みを生かし、集え一つに「心と地域の豊かさを求めて」を実現可能な生産現場の確立を目指して参ります。

今はコロナ禍の最中にあり、経済活動が何時どうやって復活するのかが見通しのつかない状況でもありますが、今回のコロナウイルスでマスク一つ手に入らない体験をした中、食料の安定供給に消費者のニーズがどう変化するか、我々の目線で確認しながら農協事業に取り組む事の重要性を改めて感じる次第でもあります。

農協としても組合員、役員が責任ある行動を実践する事で、一次産業が成長し地域の活性化にも大きく貢献するものと考えます。このような厳しい状況の中ではありませんが、きたみらいの農協事業運営が停滞する事無いように取り組んで参りますので、今まで以上に皆様の指導・鞭撻をよろしくお願い申し上げます。就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

きたみらい農協の
更なる発展を目指して



代表理事専務
齊藤 和雄

新緑の候、組合員の皆様におかれましては、管理作業等何かとご多忙のことと存じます。

このたび、西川前組合長の北海道厚生連代表理事副会長並びに全共連北海道本部運営委員会副会長の就任に伴い、常勤体制が変更となり新たに代表理事専務の職を仰せつかりました。職責の重大さに身の引き締まる思いであります。組合員皆様の営農と生活を守り高める「協同組合の理念のもと、きたみらい農協の更なる発展を目指すべく、甚だ微力ではございますが専心努力する所存でございますので今後とも一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて今年に入り、新型コロナウイルスの発生により、これまでの生活が一変してしまつ状況にあり、いまだに感染拡大は収まらないところがあります。この様な世界規模での災害とも言える状況下にお

いて、輸入農産物に依存している日本の食生活でも、改めて、国産農産物の大切さが見直される機会になったのではないのでしょうか。中でも食糧基地北海道の期待は大きく安全・安心、そして安定供給が求められています。私たちは、食糧生産で国を支える、そうした誇りと自信を持ち、先人から伝えていただいた知恵と技術と経験と、そして現代の科学と技術を信じて農業を継続していきましよう。農協といたしましても様々な問題解決に取り組み、組合員皆様の期待に応えられる農協としての事業を運営してまいりますので、併せて皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、組合員、ご家族の皆様がご健勝と、農作業事故にはくれぐれも注意されまして、本年も豊稔の出来秋を迎えられますことを、心からご祈念申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



J A トピックス

秋の収穫に向けて、園児たちと播種体験

～青年部南支部食育活動～

JAきたみらい青年部南支部では6月5日、青年部活動の一環として置戸町の認定こども園置戸町こどもセンター「どんぐり」で、播種体験を実施しました。先月の5月20日にも園児たちと播種体験を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となり、青年部員が玉ねぎ、人参、じゃがいもの播種作業を行いました。

今回は園児たちと一緒にカボチャ、ヤーコン、枝豆の播種体験を行い、園児たちは「うまく植えられた!」、「大きくなーれ」と楽しそうに作業をしました。

青年部南支部の遠藤泰斗支部長は「園児たちと播種体験を行うことができ、ホッとしている。最近コロナの影響で自粛ムードとなっている。青年部の活動も中止が続いていたので実施することができて良かった」と話してくれました。同支部では10月にも園児たちを対象に収穫体験を行う予定です。



▲播種作業を行う青年部員



▲ヤーコンを植える園児たち



人手不足で悩む農業法人のもとで、農業研修開始

～ピンチはチャンス、第一次産業学ぶきっかけに～

JAきたみらい温根湯地区の(株)森谷ファームでは6月1日、石屋製菓株式会社の若手社員らが農業研修を開始しました。

この取り組みは、一般社団法人北海道農業法人協会のサポータークラブ会員である石屋製菓株式会社が、新型コロナウイルス感染症の影響により休業していた製造工場や観光施設「白い恋人パーク」に勤務する入社3年以内かつ30歳未満の農業研修を承諾した約130名の社員が対象となり、人手不足となっている道内8農業法人のもとで農業研修を実施。原料供給元の農業や酪農について学び、情報収集や生産者との関係構築を図りました。

受入先となった(株)森谷ファームの森谷裕美代表取締役はこの取り組みについて、「労働力となりとても助かる。この体験を本業に活かせるよう頑張ってもらいたい」と感謝を述べました。

玉ねぎの間引きや草取り、白花豆の竹差し作業を中心に行う2名の社員は「農業に関わるのは初めて。こんなに苦労して作業をしていることを知ることができて良い経験になった」と話しました。

グループに分かれた社員らは1ヵ月間の研修を経て、他農業法人へ派遣され、10月31日まで研修する予定です。



▲竹をまとめる石屋製菓の社員



スキルアップを目指して～外国人技能実習生～

4月に来北した技能実習生は、4月下旬より馬鈴しょの被覆作業やタマネギ、てん菜の補植作業などの実習を行い、6月中旬にはキャベツ・白菜などの葉物野菜の収穫作業を行いました。

葉物野菜の収穫は手作業を要し重労働であり、また、労働者の高齢化による人材不足に悩む農家が多いため、人材確保に向けた取り組みの一つとして期待されています。

実習生9人は、北見市上仁頃の(株)開拓ファームでキャベツの収穫作業を行い、手際よく段ボール箱に詰めていました。

実習生のグエン・ホン・ゴック・アインさんは「手が少し痛かったけど、楽しい収穫作業でした」と話してくれました。

今後も機械化されていない人手を要する様々な農作業を中心に取り組み、2・3年目の実習に向けたスキルアップを目指しています。



▲段ボール箱に詰める実習生



▲キャベツを収穫する実習生



花いっぱい! 花壇作り

～JAきたみらい女性部相内地区～

女性部西支部相内地区は6月8日、相内支店前にある国道沿いの花壇整備を行いました。女性部員14人が参加し、赤色のサルビアや黄色のマリーゴールド、緑色のテランセラと色とりどりの花苗を植え付けました。参加した女性部員の皆さんはてきぱきと手際よく作業を進め、あっという間に花壇にはたくさんの花が並びました。

同支店での花壇作りの歴史は古く、農協合併前から女性部と協力して行っており、北見市主催の花壇コンクール街路花壇の部で何度も最優秀賞を受賞しています。

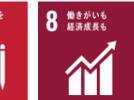
花壇作りにあたり、女性部員の川岸啓子さんは「今年は新型コロナウイルスの影響で花壇コンクールが中止となり残念に思いますが、地域の方々や利用者に花を眺めて楽しんでいただけたらうれしいです」と話していました。



▲花壇に花苗を並べる女性部員



▲花の苗を植える女性部員



高齢者が抱える介護のリスクと 早期発見の重要性②

要介護者の中には、立ち上がりや歩行の動作が出来なくなり、急に介護が必要になった人がいます。移動の動作は骨・関節・筋肉・神経が行っていますが、これらの器官は徐々に損傷しやすくなり、機能は低下していきます。そのため、高齢者はつまずくことが増えたり、関節の痛みを抱えたりします。これが続くと転倒・骨折や関節疾患に至り、それをきっかけに介護が必要になります。



※「最近靴下を立て履けない」「家の中でつまづいた」「階段は手すりが必要」は筋力低下のサインです。

どの器官も加齢により衰えていきますが、その中で機能の維持・回復しやすいのが筋肉です。筋肉は適切な運動と食事である程度の機能維持が望めます。しかし、農作業だけで十分な介護予防対策はできません。全身の筋肉の筋力と柔軟性を維持するには、運動の内容に偏りがあるからです。

農作業は長い時間同じ動作を繰り返すため、使う筋肉が限られています。同じ姿勢でいると筋肉が拘縮しますし、それにより変形性膝関節症などの疾患を抱えやすくなります。また、農繁期と農閑期の運動量の差が大きく、定期的な運動が見込めません。特に冬の間に横になって過ごすような習慣は筋力低下を招きます。



スクワットや片足立ちの運動が効果的です

このように、筋肉の機能維持の面からみても農作業だけで介護予防はできません。しかし、農業従事者には定年がないため「仕事ができている」からと自身の衰えを見逃しやすくなります。いくら農作業が出来ていても、必ず加齢により衰えている部分はありますので、それから目を背けず、家族や近隣の人と様子を確認しあう、介護予防教室などに通う、体に違和感があれば医療機関を受診するというように、適切な対応を行い介護予防に取り組んでください。

※高齢者福祉活動に関するお問い合わせ先:担い手グループ 24-2145 (榎本・辻本・長谷川)

絆を拓く協同組合 JAと農業 監修=JCA (日本協同組合連合機構)

「組合員」としての役割発揮

JAは、組合員が一人では解決できない農業や暮らしの困りごとを、他の組合員と力を合わせて解決するための組織です。そのためには、組合員同士で意見を出し合い、それをまとめることが必要となります。このような役割を「意思反映」や「運営参画」などと呼んでいます。しかし組合員になって間もない人がこうした役割を果たすのは容易ではありません。

そこでJAでは、組合員に対してまずは地域農業や協同組合、JAへの理解促進をはかり、その上でJA事業の複合利用や、さまざまな活動への参加を呼びかけています。さらに組合員の傾向や特性に合わせて、受け皿となる組合員組織(集落組織、支店運営委員会、年金友の会・共済友の会など)を整備しています。こうした多数の組合員が集まる「場」を通じて組合員の「意思反映」を図るとともに、その代表者による「運営参画」を進めています。

【地域農業振興の応援団】 (ちいさのうごようしんこうのおうえんだん)
JAグループは、准組合員を「地域農業や地域経済の発展を農業者と共に支えるパートナー」と位置付けています。地元産農産物の購入などによる「食べて応援」、援農ボランティアなどによる「作って応援」といった活動を促進し、正組合員だけでなく、准組合員も積極的な役割を果たす中での「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指しています。

組合員のメンバーシップ強化イメージ

アクティブ・メンバー

- 理事、組合員組織、支店運営委員等としてJA運営に参画
- 組合員組織等を通じてJA運営に意思反映
 - 組合員組織、支店等の活動に複数参加
 - 事業の複合利用
- 地域農業、協同組合、JAの理念を共有
- JA加入・事業利用

准組合員の「地域農業振興の応援団」取り組みイメージ

作って応援

- 体験型農園
- 直売所への出荷
- 援農ボランティア

食べて応援

- 直売所で地元産農産物を購入
- 農業応援金融商品(農業応援貯金)
- 農業まつり、支店まつり
- 農業体験イベント
- 直売所でのイベント

第28回JA全国大会決議(概要版)をもとに作成
耕ぞう、大地と地域の未来。

ほのぼのの 広場

きたみらい 青年部



- 就農したきっかけ
昔からトラクターが好きで漠然と農家になると思っていたが、進路を考えたときに農業以外の仕事をしている自分を想像できなかったので農業大学に行こうと決めたのがきっかけです。
- 農業にかける思い
生きるために必要な食を支えていきたいです。
- 青年部活動での一番の思い出は
青年部で海外に行ったことです。また行きたいです。
- 青年部の魅力
若いうちから広い範囲での交流や情報交換から学ぶことが多いのが魅力だと思います。

日本の食を支えて いくための農業

上常呂地区・常川
梶浦 貴志さん(34歳)

今回は青年部東支部副支部長の梶浦貴志さんに登場いただきました。(臼井 慎吾)

記念の一枚



▲カラオケ大会に出場した様子

子供の頃からの歌好きがきっかけで、30歳の頃にカラオケ大会の初舞台に立ちました。北見市内にかかわらず道内各地のカラオケ大会に参加し、賞を受賞することも。2015年には網走管内の歌謡選手権大会に出場し、準優勝するほどの腕前で、農作業の合間をみても練習に励んでいるそうです。カラオケを通じて、色々な仲間と出会えることが魅力の一つで、ストレス発散にも最適であると教えてくれました。

歌ってストレス発散

訓子府地区・柏丘
佐々木 浩三さん
(67歳)



今年は、新型コロナの影響もあり、各地で行われている大会が中止となり参加出来ませんが、コロナが落ち着けばまた行きたいと笑顔で話してくれました。

(大石 友和)

INFORMATION

頂いたお礼の手紙の一部を紹介します!

「JA職員の皆様、酪農家の皆様
 「さくら」デイケアに行ってる者です。お昼の食事に牛乳が出ました。また瓶に入っていたので懐かしくて一気に飲みました。
 とても美味しく味も濃くいただきました。
 皆様、お元気で健康でお仕事頑張ってください。
 有り難う御座いました。(手紙一部抜粋)」

その他、管内小中学校からも多数お礼の手紙を頂きました。



▲中島会長(酪農振興協議会・中央)と介護老人保健施設職員の方々

牛乳、バター贈答券の取りまとめで消費拡大!



農林水産省が「プラスワンプロジェクト」を進める中、当JAでも乳製品消費拡大に取り組んでいます。
 組合員をはじめ、当JA役職員、1市2町の行政職員を対象に5月中旬から下旬にかけて牛乳とバターの贈答券の購入取り纏めを行いました。
 購入を呼び掛けることにより牛乳贈答券7,220枚、バター贈答券4,675枚の販売に繋がりました!

タマネギ贈呈で地域飲食店を応援

当JAは6月1日、地元の飲食店応援企画としてタマネギの贈呈を行いました。
 新型コロナウイルスの影響により経済的影響を受け厳しい状況にある飲食業界に活気を取り戻してもらおうと、地域の特産物であるタマネギ8,000kgと赤タマネギ1,200kgを寄贈しました。贈られたタマネギは北海道社交飲食衛生同業組合をはじめ、商工会など5団体が窓口となり、6月上旬にかけて当JA管内約200箇所の飲食店に届けられました。
 寄贈を行った当JA西川孝範会長は「地域を元気にするには、飲食業界の活性化が不可欠。きたみらい産タマネギを使って食べる人が笑顔になれるよう頑張ってください」とエールを送りました。また、寄贈を受けた同組合北見支部の小池康幸支部長は「開店できることに感謝をして接客をしていく。オホーツク管内が一つとなって飲食業界を盛り上げたい」と意気込みを語りました。



▲小池支部長にタマネギを手渡す西川会長(北見市で)

管内の学校などに乳製品を贈呈!

～牛乳やヨーグルトで元気になって～

当JAでは5月下旬から6月上旬にかけて、北見赤十字病院や1市2町の小中学校、介護老人保健施設に乳製品などの贈呈をしました。

昨今の情勢により乳製品全般の消費が落ち込む中での行き場を失った生乳の有効活用と、感染症指定医療機関である同病院に勤める医療従事者の後押しや牛乳を楽しみにしている地域の方々に届けたいとの思いから実施しました。

寄贈を受けた北見赤十字病院の荒川穰二院長は「多くの方が外出自粛をしたおかげで終息に向かっている。大切なのは心を一つにして取り組むことだと思う。当院も関係機関と一体となってコロナ対策に取り組んでいきたい」と話し、北見市教育委員会の志賀亮司教育長は「子どもたちは登校することを心待ちにしている。授業や部活動など少しずつ戻していければ」と今後について話しました。

寄贈内訳	寄贈先	寄贈品	寄贈数
	北見赤十字病院	きたみらい牛乳 森永乳業 のむヨーグルト	900本 1,656本
	1市2町小中学校(39校)	牛乳贈答券(200円分)	8,244枚
	1市2町福祉施設(32箇所)	きたみらい牛乳	9,330本



▲西川会長(左)と荒川院長(右)



▲志賀教育長(北見市・左)と西川会長(中央)、中島会長(酪農振興協議会・右)



▲大坪組合長(左)と平野教育長(置戸町・中央)、倉本副会長(酪農振興協議会・右)



▲菊池町長(訓子府町・後列左から2人目)と大坪組合長(後列左から3人目)、渡辺副会長(酪農振興協議会・右)

INFORMATION

第5回 理事会報告

6月29日、午前9時00分より第5回定例理事会が開催され、報告事項14件、決議事項7件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①組合員状況報告について
- ②財務状況報告について
- ③JAバンク基本方針に基づく経営状況（財務モニタリング）の報告について
- ④マネー・ローディングガイドラインに基づくギャップ分析等の報告について
- ⑤道連の決算及び剰余金について
- ⑥CSRレポート2020の発行について
- ⑦作況調査（6月15日）報告について
- ⑧5月13日降雹等被害について
- ⑨R元年産玉ねぎ5～6月出荷品（超遅出し）の販売について
- ⑩R元年産食用馬鈴しょ野菜価格安定事業に係る価格差補給金の交付について
- ⑪R元年産玉ねぎ野菜価格安定事業に係る価格差補給金の交付について
- ⑫R2年産なまぐさ黒穂病の対応について
- ⑬生乳生産状況及び個体取引価格状況について
- ⑭外部出資の払い戻しについて

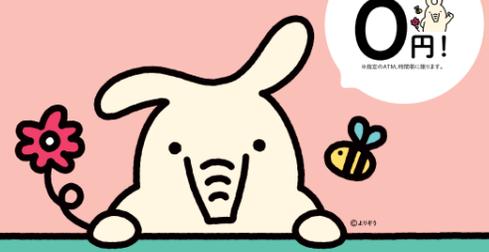
【決議事項】

- ①出資減口について
- ②固定資産の取得・処分について
- ③規程類の改正について
- ④理事報酬の配分について
- ⑤R2年夏期地区別懇談会提出資料について
- ⑥R2年農産・青果物取扱要領の設定について
- ⑦令和2年度生乳生産の取り進めについて

年金のお受取りは JAバンクが 便利で安心!

JAバンクの年金受取りサービス

JAバンクのキャッシュカードがあれば、お近くのJAバンクはもちろんコンビニATM等でも平日の日中は無料でご利用いただけます。すでに年金を受給されている方も、JAバンクならもっと便利になります。



年金の**新規お受取り**、**ご予約**、**ご紹介**で **オーラルケアセット**などを **プレゼント!**



年金受取りサービスに関するお問い合わせは、お近くのJA窓口まで。 <http://www.jabank-hokkaido.jp>

★大好評につき、全道累計販売台数 1,000台突破★

CARRY

JA特別パッケージ

安全装備も充実でお手頃価格!

109.4万円

充実の安全装備!

EVERY

JA特別パッケージ

充実の安全装備!

129.6万円 / 138.8万円

お問い合わせ先: 農機自動車G 車両整備工場 TEL:0157-47-4820 まで

「#cowエール」をつけて 元気を届けよう!

新型コロナウイルス感染症の影響による生乳廃棄を防ぐため、乳製品の消費拡大が課題となっています。そのような中、ホクレン「ミルクランド北海道」では専用ハッシュタグ「#cowエール」をつけて牛乳や乳製品を飲んだり食べたりする様子をSNSに投稿することで、1投稿10円相当を医療従事者や子どもたちへ牛乳・乳製品の詰め合わせを贈るキャンペーンが始まりました。

また、ハッシュタグをつけ、SNSに投稿した人の中から期間中（3ヵ月）毎月抽選で150人、合計450人の方に牛乳・乳製品の詰め合わせがプレゼントされます。

ぜひこの機会にチャレンジしてみてください!!



「#cowエール」の概要

- ・タイトル 牛乳を贈る助け合いプロジェクト #cowエール
- ・実施期間 令和2年5月12日～8月11日
- ・参加方法 Instagram、Twitterよりハッシュタグ「#cowエール」をつけて応援メッセージを写真または動画付きで投稿
- ・その他 注意事項などはキャンペーンページをご覧ください（#cowエールで検索）

牛乳を贈る助け合いプロジェクト

#COWEIL

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B

出題・イラスト：酒井栄子



6月号まちがいさがしの当選者

6月号のまちがいさがしの答えは「1、6、7、9、12」でした。正解者30名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

()内は地区名

- ・石澤 キヌさま (訓子府) ・笠野 敏明さま (訓子府)
- ・竹村 咲希さま (訓子府) ・永井 さくらさま (訓子府)
- ・斉藤 良子さま (訓子府) ・小坂 正枝さま (訓子府)
- ・黒川 清さま (訓子府) ・山本 ゆかりさま (上常呂)
- ・岩橋 椎菜さま (温根湯) ・小林 和真さま (端野)

以上の方々は、JAきたみらいの「白花豆で作ったごまドレッシング」と「オニオンコンソメ」をプレゼント致します。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。

抽選で10名の方に、JAきたみらいの「北見玉葱焼肉のたれ」と「芳醇 玉葱醤油」をプレゼント致します。

小 さなミスが収穫の時に大きな失敗につながります。ミスをなくす生活を送りましょうね。(訓子府地区 石澤 キヌさん)

農作業が本格化し、忙しい毎日をお過ごしかと思いますが、小さなミスは身体の疲れから生じることもあります。特にこれからの時期は熱中症対策が欠かせませんね。こまめな水分補給を忘れずに、農作業がんばって下さい！

や っとわかりました。ギブアップ寸前でした。(留辺蘂地区 坂下 恭梧さん)

今回は、前月号以上に難易度が高いまちがいさがしでしたね！私もトライしてみましたが、とても苦戦しました…。全問正解、お見事です！

皆 さん雨にも負けず、風にも負けず、コロナに負けずガンバロウ！(留辺蘂地区 荒 えみ子さん)

なかなか終息に至らないコロナウイルスですが、皆さんの徹底した感染対策により、成果は確実に現れていると思います。がんばりましょう！

じ いちゃんが作ったとれたての野菜を食べています。やっぱり、とれたてはおいしいです。(訓子府地区 濱野 慎悟さん)

とれたての野菜、とっても美味しいです…。おいしい野菜を食べると、作った人への感謝の気持ちも湧いてきます。おじいちゃんにありがとうの気持ちを込めて、たくさん野菜を食べて下さい！

VOICE 読者の声



ベジタブルライフ

シニア野菜ソムリエ KAORUのイラスト：小林祐美子

フダンソウ

～彩り豊かなカラフル野菜～

フダンソウのプロフィール

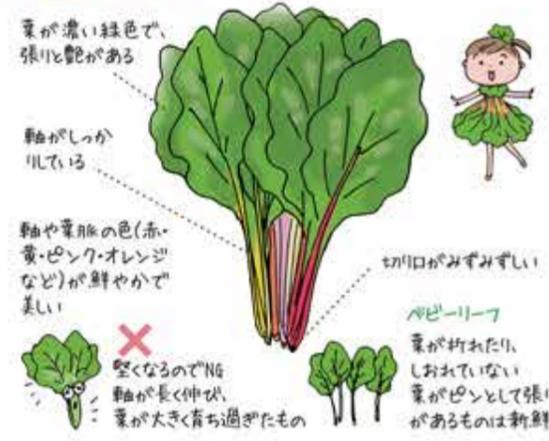
【分類】ヒユ科

【原産地】地中海沿岸

【おいしい時期(旬)】6～10月

【主な栄養成分】β-カロテン、ビタミンE・K、カリウム、マグネシウム、葉酸、鉄、マンガン、食物繊維など

見分け方



保存方法



フダンソウのいろいろ



フダンソウの力

β-カロテン、ビタミンE 抗酸化作用があり、免疫カラム、生活習慣病予防、風邪予防などに役立つ。β-カロテンは体内でビタミンAに変り、視力や肌を正常に保つ働き

葉酸、鉄 体の隅々まで酸素を運び、貧血予防などに役立つ

食物繊維 血糖値の上昇を抑制し、肥満予防やダイエットに役立つ。便秘解消にも効果的

カリウム、マグネシウム ナトリウムの排出を促し、血圧を正常に保つ。高血圧予防や心臓の収縮をスムーズにする働きもあり、けいれんなどの解消にも

ビタミンK マグネシウム、マンガン 骨にカルシウムを沈着させる働きのあるビタミンK、マグネシウムやマンガンは骨の形成に役立つ

楽しみ方・食べ方のコツ



フダンソウのヒミツ

歴史 紀元前：地中海沿岸原産。16～17世紀ころ中国から日本に伝来。現在の主流：西洋種は明治時代に導入

名の由来 漢字では「不吐草」。葉が次々に成長し、一年を通して収穫できることが由来

葉が大きい肉厚、軸は太め、癖がなく柔らかい ため、ホウレンソウと同じように幅広い調理が可能

英名：チャード

やまぎまな呼び名

京都：うまい

沖縄：ンスナバー